高等学校普通科におけるキャリア教育の推進

１　はじめに

関係大臣連名による「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」（平成 16 年 12 月）に代表される，系統的なキャリア教育が実施されるよう推奨され，また，その後の中学生を対象とした「キャリア・スタート・ウィーク」等により，職場体験が一層推進された状況の中で，次の発達段階である高等学校でのキャリア教育の全国的な実情を見ると，特に普通科における取組は十分ではない。

文部科学省は「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議（報告書）」（平成 18 年 11 月）で，高等学校の７割を占める普通科におけるキャリア教育の在り方についての提言をまとめたが，十分には浸透していない。

ここで，今一度，高等学校普通科におけるキャリア教育の推進にむけた取り組み方の一例を示したい。

なお，研究協力員には高等学校普通科に所属する者がいないため，実践事例を紹介することができないので，ここでは，キャリア教育の実態の把握，キャリア教育の目標設定，キャリア教育推進の手法について述べていく。

２　高等学校のキャリア教育の実態

児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てる「キャリア教育」が提言されてから５年ほど経過した。高等学校普通科で，キャリア教育をどのように認識しているかについて以下のような回答が得られた（**資料１**）。

【資料１　「2006 年高校の進路指導に関する調査」㈱リクルート　全国の高等学校 813 校の回答から作成　複数回答可】

質　問　項　目	%
生徒にとって有意義だと思う	50.6
学校現場で浸透するかどうかは未知数	43.5
提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら，教員の負担は相当大きくなりそうだ	35.5
望ましい進路指導が実現できそうな期待がもてる	29.8
進路指導や職業教育と「キャリア教育」の違いが分からず，主旨がみえない	20.7
今は注目されているが，「キャリア教育」という言葉も内容もいずれ忘れ去られると思う	10.5
「キャリア教育」において教員が果たすべき役割がみえない	8.6
「キャリア教育」の意味が分からない	5.2
無回答	2.2

「学校現場で浸透するか未知数」，「提唱されている内容どおりに現場が取り組むとしたら，教員の負担は相当大きくなりそうだ」という否定的な回答が多い点は見逃すことができない。また，高等学校普通科での実際の取組状況はどのようなものであるかを見ると，以下のとおりである（**資料２**）。

【資料２　「2006 年高校の進路指導に関する調査」㈱リクルート　全国の高等学校 813 校の回答から作成　複数回答可】

質　問　項　目	%
キャリア教育の意味を生徒に伝えている	29.3
キャリア教育について組織的・体系的な指導計画を作成している	23.9
キャリア教育推進のため，学校と地域や民間企業との連携を強めている	16.4
キャリア教育に関する文部科学省や教育委員会などの資料・テキストを教員に配付している	18.6
キャリア教育について新しい学習プログラムを作成している	13.4
キャリア教育の概要や推進方法に関する研修会・勉強会を実施している	12.9
無回答	25.3

無回答を除く約 75%が何らかの形でキャリア教育に取り組んでいることが分かるが，その取組状況は様々で，積極的とは言えない。

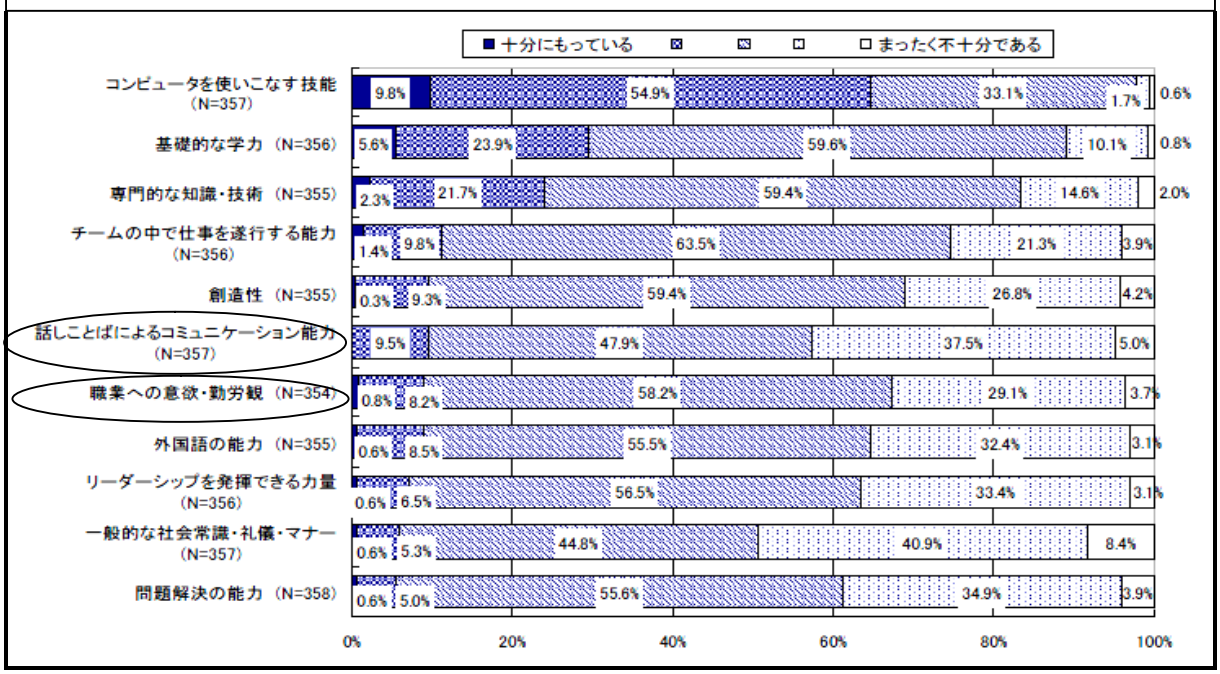
また，普通科におけるインターンシップ（就業体験）は，文部科学省の調査研究ではキャリア教育推進の有効な方策として示されているが，その実施率は 44.2%で，他の学科に比較して，かなり低くなっている。また，体験日数についても，１日が 35.2%，２～３日が 54.1%と短期間という状況である（「平成 18 年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査」国立教育政策研究所）。

大学卒業後の実態については，全国の高等学校の大学進学率は 52.3%（愛知県高等学校普通科は 70%）であるが，全国の大学卒業生の 12.4%，短期大学卒業生の 10.3%は進学・就職もしていないのが現状である。これは，高等学校における学力偏重指導，いわゆる，出口指導で「入れる」大学等を選んだり，職業について考えることを先送りしたり，無目的に大学に入学したが適応できなかったり，ということが考えられる。

大学卒業生の能力・資質の実態については，国立教育政策研究所が平成 16 年に調査し，「地域における経済団体等の人材育成事業及び大学等との連携に関する調査」（資料３）で報告している。

【資料３　国立教育政策研究所「地域における経済団体等の人材育成事業及び大学等との連携に関する調査」】

「今日の大卒社員にとって，以下に挙げる能力はどの程度身に付けているか」

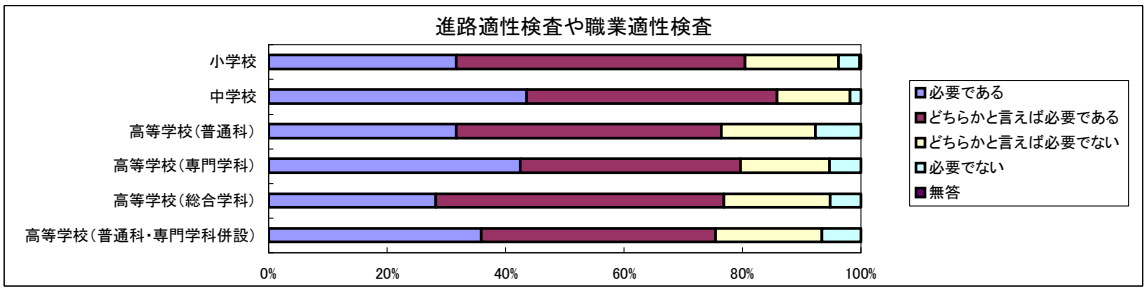


全国の 377 の地域経済団体等の「今日の大卒社員にとって，以下に挙げる能力はどの程度身に付けているか」を尋ねた問の集計がこのグラフ（**資料３**）である。一見して明らかだが，「職業への意欲・勤労観」，「話し言葉によるコミュニケーション能力」には極めて厳しい評価が与えられている。

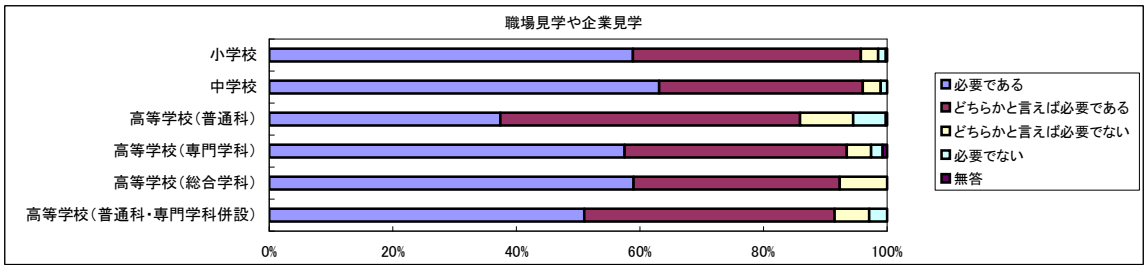
このような実態を踏まえ，本研究は平成 18 年度に「キャリア教育推進に関する調査研究」にかかわるアンケートを実施した（**資料４**）。校種別にキャリア教育に対する取組の必要性について尋ねた結果を以下に示す。

【資料４　アンケート】

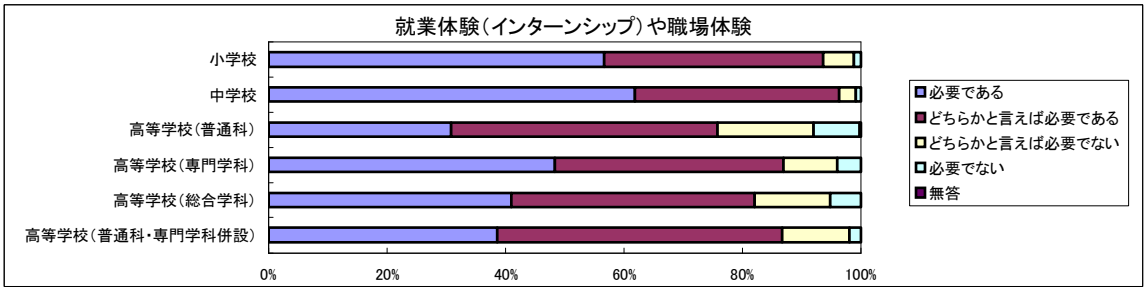
ア　校種別に見るキャリア教育の取組



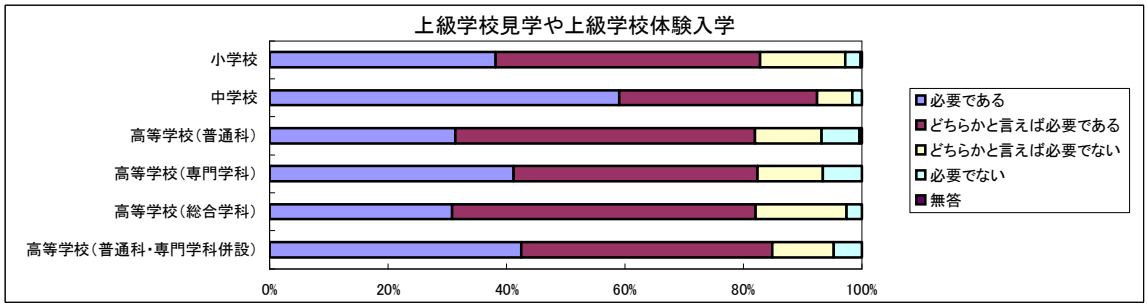
高等学校の普通科や総合学科では低い割合となっているが，進学に関する模試なども設問に含まれていれば割合は高くなったのではないかと考えられる。



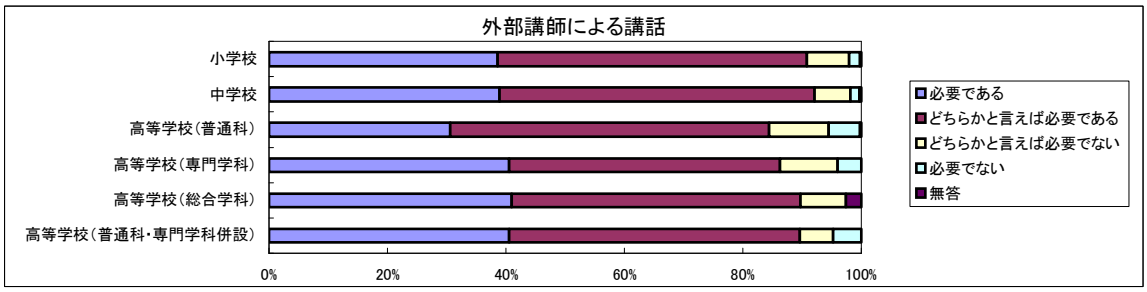
「職場見学や企業見学」の必要性について，「必要である」を選んだ割合で最も低かったのは高等学校（普通科）の 37.3%であった。



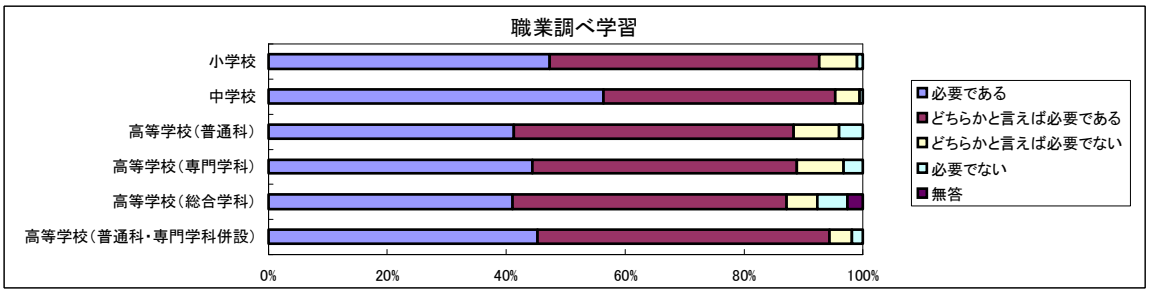
「就業体験（インターンシップ）や職場体験」の必要性について，高等学校では小学校，中学校と比較して肯定的に考えている教員の割合が低い。



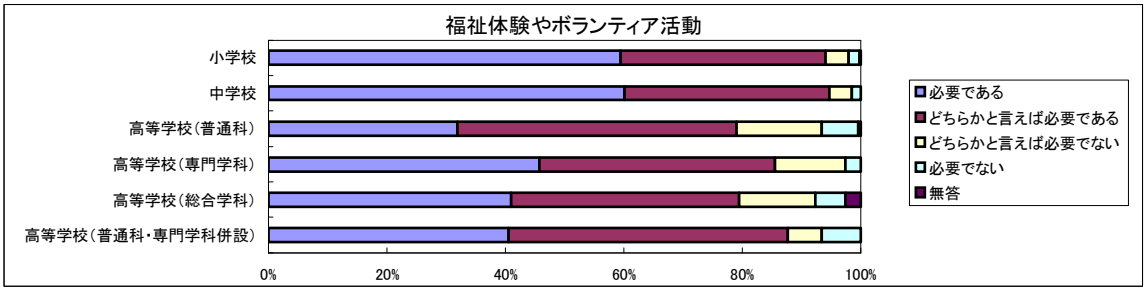
「上級学校見学や上級学校体験入学」の必要性について，「必要である」を選んだ割合で中学校が 59.0%と極めて高い割合を示している。



「外部講師による講話」の必要性について，高等学校（普通科）では「必要である」を選んだ割合が 30.6%と低い。



「職業調べ学習」について，「必要である」を選んだ割合で中学校が 56.4%で他の校種と比べて高くなっている。



「福祉体験やボランティア活動」の必要性について，高等学校では小学校，中学校と比較して肯定的に考えている割合が低い。高等学校（普通科）では 31.9%となっている。

キャリア教育の取組の必要性に関して，小学校や中学校，あるいは，高等学校（専門学科，総合学科）と比べると，高等学校（普通科）の数値がやや低いが，どの調査項目に対しても肯定的な回答の「必要である」と「どちらかと言えば必要である」を足した数値は 70%を超えている。つまり，キャリア教育の意義・必要性は認識しているが，何らかの障害のために，その取組が不十分であると推測できる。

このような認識の基づき，高等学校普通科で，生徒が将来における社会参加を視野に入れ，大学進学の意義を理解し，目的をもって様々な活動に取り組むことができるよう，キャリア教育を一層推進・充実させるための方策を提案する。

３　高等学校普通科でのキャリア教育の目標

各学校がキャリア教育に取り組むに当たっては，生徒が，小・中・高等学校の各発達段階にあって，どのようなキャリア発達上の課題を抱えているか，それを達成するために，どのような能力・態度を育成することが期待されているのかを理解するとともに，発達課題と育成すべき能力・態度とが，どのように関連しているかを理解する必要がある。

各学校がキャリア教育を推進するに当たっては，計画の立案に先立って，生徒の生活や意識あるいは家庭，地域の実態などから，自校の生徒のキャリア発達を促す上で，何が課題か，どのような能力・

態度の育成に重点を置くべきかなどを検討し，自校の生徒に育成すべき「能力・態度」に焦点を絞った，自校用のキャリア教育の「学習プログラムの枠組み」を作成することが考えられる。

学校の教育目標が，それぞれ異なるのと同様に，各学校におけるキャリア教育での目標も実態に即して，自由に創意工夫を凝らして作成すべきものである。特に，高等学校普通科では，大学進学を積極的に目指す生徒が多いため，このことを考慮することは極めて重要である。

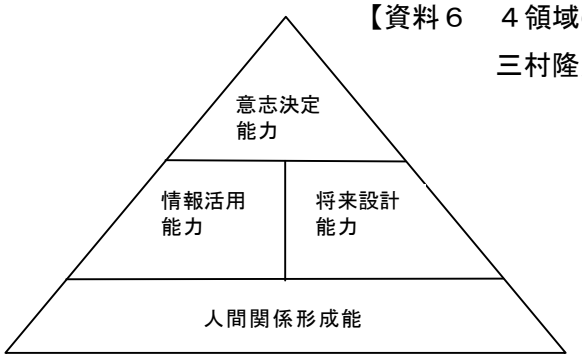
平成 14 年 11 月国立教育政策研究所は調査研究報告書「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」の中で「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例)」を示し，児童生徒の育成すべき態度・能力を明らかにした。ここでは,「４領域８能力」がすべて同等であるように例示されている（資料５)。

【資料５　職業的（進路）発達にかかわる諸能力】

職業的（進路）発達にかかわる諸能力		
領域	領域説明	能力説明
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し，自己の個性を発揮しながら，様々な人々とコミュニケーションを図り，協力・共同してものごとに取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め，他者の多様な個性を理解し，互いに認め合うことを大切にして行動していく能力
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で，コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら，自己の成長を果たしていく能力
情報活用能力	学ぶこと・働くことの意義や役割及びその多様性を理解し，幅広く情報を活用して，自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業等に関する様々な情報を収集・探索するとともに，必要な情報を選択・活用し，自己の進路や生き方を考えていく能力
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して，学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や，今しなければならないことなどを理解していく能力
将来設計能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え，社会の現実を踏まえながら，前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し，自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え，それを実現するための進路計画を立て，実際の選択行動等で実行していく能力
意思決定能力	自らの意志と責任でよりよい選択・決定を行うとともに，その過程での課題や葛藤に積極的に取り組み克服する。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり，葛藤を克服したりして，主体的に判断し，自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ，選択結果に適応するとともに，希望する進路の実現に向け，自ら課題を設定してその解決に取り組む能力

しかしながら,「４領域８能力」の相互関係は明らかではない。それらが，単に並列であるのか，能力間に上下関係があるのかは示されていない。

【資料６　４領域の相互関係
三村隆男 上越教育大学准教授の説から作成】



ここで,「４領域８能力」の相互関係について，それぞれの能力を精査していくと，最も基本的な能力は，コミュニケーション能力であり，４領域の構造化を試みれば，コミュニケーション能力を含む人間関係形成能力が最も基礎となる領域である（**資料６**）。

生徒のこれまで育ってきた環境が大きく変わり，以前なら自然に身に付いていた社会人としての基礎的な力であるコミュニケーション能力が身に付かなくなってきている。家庭や地域に教育力があったころは，あえて言わなくても高校生ならばコミュニケーション能力を自然に身に付けていたが，今は意図的な仕組みを取り入れなければ育たなくなってきている。

キャリア発達の観点から高校時代をとらえると，高校生が小学校，中学校で経験してきた様々な学習や体験の上に，更に新たな学習や体験を積み重ね，自分の能力や適正を吟味し，将来設計を立て，現実的な進路選択をするのがこの時期である。よりよい進路選択を可能にするために，親や教師をはじめとする大人や同年代の友人の考えや意見等に耳を傾け，様々なアドバイスを受容しながら，自らの価値観を明確にしていくプロセスが発生するが，ここでコミュニケーション能力，特に，話すこと，聞くことが重要な役割を果たすことになる。

また，就職試験での面接，昨今の大学等の入学試験の多様化に伴う面接試験の増加，大学等での授業で実施するプレゼンテーション等，コミュニケーション能力が進学・就職の際にも重視されていることは言うまでもない。

一方，（社）日本経済団体連合会は「主体的なキャリア形成の必要性と支援のあり方」（平成 18 年６月）の中で，次のように指摘している（**資料７**）。

【資料７（社）日本経済団体連合会「主体的なキャリア形成の必要性と支援のあり方」**】**

従来，日本の企業の多くは，現場に対する深い知識と理解，変化にフレキシブルに対応する力，問題発見・課題解決能力など，いわゆる「現場力」に支えられてきた。そこでは個々人の経験の積み重ねが仕事を遂行する上での大きな要素であり，先輩から後輩へ自然な形で技術・技能（匠）の伝承も行われていた。かねて我が国企業では，人と人とのつながりを重視した経営を行ってきたのである。

しかしながら，グローバリゼーションやＩＣＴの発展に伴う新たな技術・技能の登場によって，これまで蓄積してきた仕事の経験がそのまま活かされるとは限らないような状況となった。（中略）

一方，インターネットやメールの普及によって，情報の伝達においてもメールでやり取りすることが多くなってきた。こうした状況変化は，時間や距離の壁を越えてコミュニケーションをとることが可能になった反面，直接顔を合わせて話をする機会が少なくなり，相手に自分の気持ちを伝える，逆に相手の気持ちを読み取るといった意思の疎通の難しさの問題を生じさせている。

このような現場力の低下を如何（いか）に向上させていくかが，今日の企業にとって喫緊の課題である。そのためには，何よりも話す力・聴く力をベースとした「コミュニケーション能力」の向上と，それによる企業風土の活性化が不可欠といえる。その上でさまざまな技術・技能，ノウハウ，構想力を備えた多様な人材が，密接に連携を図りながら仕事を進めていくことができるかどうかが今後の大きな課題となる。

この報告書から分かるように，企業の現場でも，従業員同士のコミュニケーション能力の向上を喫緊の課題として取り上げ，対応を求めている。それは，コミュニケーション能力が何歳になっても，それぞれの年齢や仕事の内容に応じて必要となる能力だからである。したがって，企業が採用時に重視する要素としてコミュニケーション能力を挙げているのも当然のことである。（社）日本経済団体連合会が平成 17 年５月に実施した「新卒者採用に関するアンケート調査」において，企業が採用に当たって重視する要素の順位を見ると，「コミュニケーション能力」が第１位であり，これを最低限必要な

能力ととらえていることが分かる。（資料８）

今日，職場や学校を取り巻く環境が変化する中で，コミュニケーション能力に明確な定義を与え，意識的に育成することは大きな意義があると考えられる。

これまで記したような高等学校普通科の進路指導の実情，生徒を取り巻く環境変化や進路希望の実態，企業からのニーズ等を鑑（かんが）み，生徒のキャリア発達と生徒が直面する当面の進路指導の両者に機能する目標を立てることが有効であると考え，人間関係形成能力，特に，「コミュニケーション能力の向上」を中心に設定したキャリア教育の取り組み方の一例を示したい。

【資料８　（社）日本経済団体連合会「新卒者採用に関するアンケート調査」】

要　　素	%
コミュニケーション能力	75.1
チャレンジ精神	52.6
主体性	52.5
協調性	48.7
誠実性	40.1

生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立って，キャリア教育を推進すべきであることは言うまでもないことだが，「コミュニケーション能力の向上」は，情報活用能力，意志決定能力，将来設計能力の基盤になり，高等学校普通科でのキャリア教育推進の一助になる部分であるので，参考にしてほしい。

３　コミュニケーション能力とは

高校生がコミュニケーション能力を身に付けることが重要であることは前段で述べたが，ここでは，「コミュニケーション能力」とは何かをみていきたい。

平成 14 年 11 月国立教育政策研究所の調査研究報告書「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」中の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」では「コミュニケーション能力」は以下のように示されている（資料９）。

【資料９　「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について」の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」より作成　太字は，「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す】

<table>
<tr><td colspan="3"></td><td>高　等　学　校</td></tr>
<tr><td colspan="3">職業的（進路）発達の段階</td><td>現実的探索・試行と社会的移行準備の時期</td></tr>
<tr><td colspan="3">〇職業的（進路）発達段階
各発達段階において達成しておくべき課題を，進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面から捉えたもの。</td><td>・自己理解の深化と自己受容
・選択基準としての職業観・勤労観の確立
・将来設計の立案と社会的移行の準備
・進路の現実吟味と試行的参加</td></tr>
<tr><td colspan="3">職業的（進路）発達にかかわる諸能力</td><td rowspan="2">職業的（進路）発達を促すために育成することが期待されている具体的な能力・態度</td></tr>
<tr><td>領域</td><td>領域説明</td><td>能力説明</td></tr>
<tr><td>人間関係形成能力</td><td>他者の個性を尊重し，自己の個性を発揮しながら，様々な人々とコミュニケーションを図り，協力・共同してものごとに取り組む。</td><td>【コミュニケーション能力】多様な集団・組織の中で，コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら，自己の成長を果たしていく能力</td><td>・自己の思いや意見を適切に伝え，他者の意志等を的確に理解する。
・異年齢の人や異性等，多様な他者と，場に応じた適切なコミュニケーションを図る。
・リーダー・フォロワーシップを発揮して，相手の能力を引き出し，チームワークを高める。
・新しい環境や人間関係を生かす。</td></tr>
</table>

この中の「異年齢の人や異性等，多様な他者と，場に応じた適切なコミュニケーションを図る」と「リーダー・フォロワーシップを発揮して，相手の能力を引き出し，チームワークを高める」の文言を更に詳しく解釈すると以下のようになる。

異年齢の人や異性等，多様な他者＝自分の身近な人以外の人々のこと。

場に応じた＝周囲の人の反応を意識し，他人の表情や言動から，自分が何がしかの行動を取ったことへの評価に相当する情報を見付け出し，次の手だてを考えること。

適切なコミュニケーション＝感情，意思，情報などを，受け取り合うこと，あるいは伝え合うこと。

リーダーシップ＝組織構成員に対してリーダーの目標を明確に示し，その目標達成のための仕掛けをつくり，組織構成員を奮い立たせること。

フォロワーシップ＝リーダーの指導力や判断力を補完し，組織成果を最大化すること。

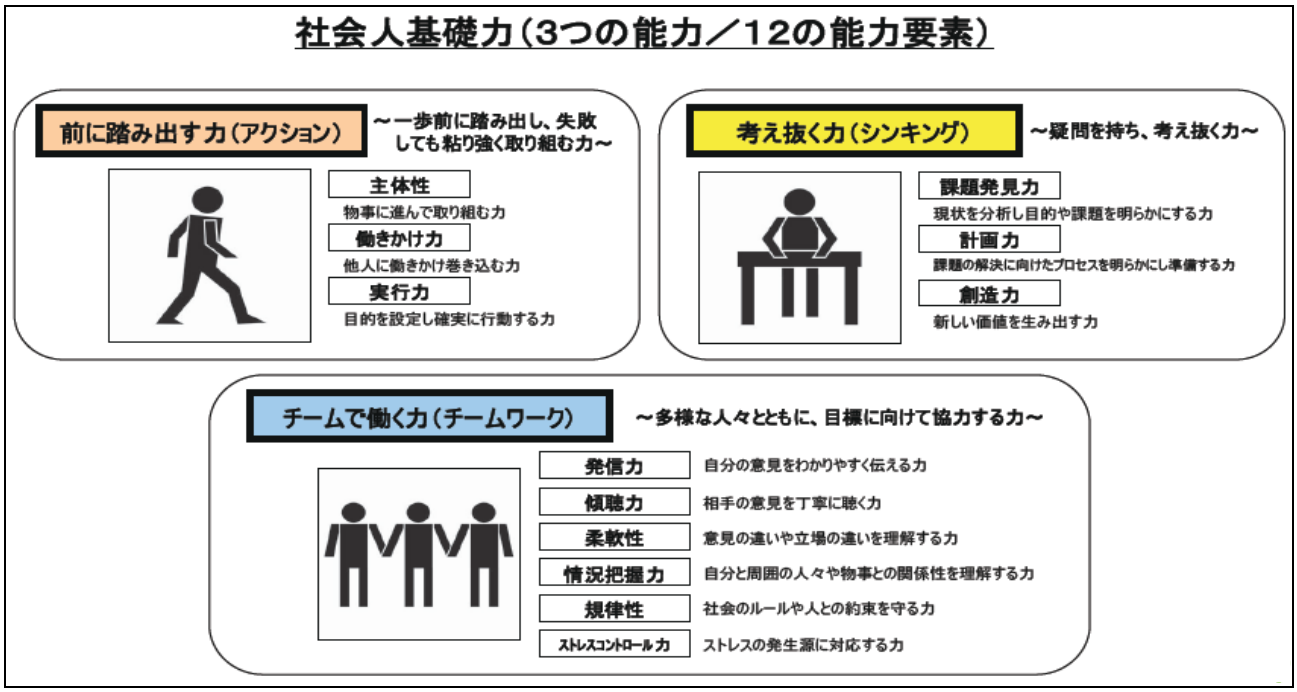
相手の能力を引き出す＝相手に質問を投げ掛け，話を聞くことにより，相手の考えが整理され，気付きが深まり，自発的に行動を起こしたくなる気持ちを生じさせる。

チームワーク＝集団を構成する一人一人がバラバラにならずに団結して活動して，互いに助け合い，補完し合い，力を出す集団活動。

自分自身にかかわることが「適切なコミュニケーション」，「リーダーシップ」，「フォロワーシップ」で述べられ，相手については，「異年齢の人や異性等，多様な他者」，「チームワーク」，「相手の能力を引き出す」で触れられ，「場に応じた」でコミュニケーションの行われる場について言及している。つまり，コミュニケーション能力や態度は，「自分」，「相手」及びコミュニケーションの行われる「場」の三つの視点をもつことにまとめられる。

「コミュニケーション能力」については，経済産業省が提唱した「社会人基礎力」という概念の中で，細分化されて示されている（資料 10）。なお，「社会人基礎力」は産業界で求められる能力の変化を受け，基礎学力・専門知識を生かして，職場や地域社会で活躍するために必要な基礎的な能力で，平成 18 年２月に「社会人基礎力に関する研究会」で整理されたものである。

【資料 10　経済産業省「社会人基礎力」】



先ほどまとめた三つの視点にかかわるものは，大なり小なり「社会人基礎力」のほとんどすべてに関連があるが，その中でも特に関連が強いものは，次のようにまとめられる。

「自分」:「発信力」
自分の意見を分かりやすく伝える力
「相手」:「傾聴力」
相手の意見を丁寧に聴く力
「場」　:「情況把握力」
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力

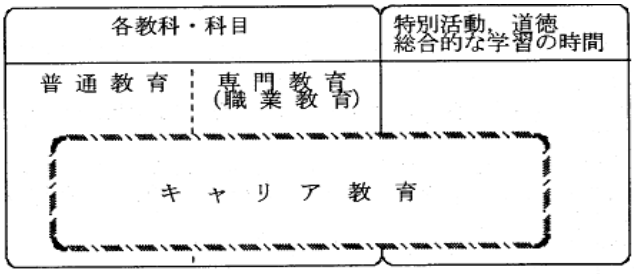
したがって，高等学校普通科で，生徒の「自分の意見を分かりやすく伝える力」,「相手の意見を丁寧に聴く力」,「自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力」の育成を図り，それらの基にある態度の育成を目指すことが重要になってくる。

４　高等学校普通科でのキャリア教育推進のための活動

ここで，生徒の「コミュニケーション能力の向上」を中心として，高等学校普通科でキャリア教育を推進していく手法について考える。

生徒のキャリア発達には，生徒が行うすべての学習活動等が影響するため，キャリア教育は学校のすべての教育活動を通して推進されなければならない（資料 11）。

【資料 11　文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」】



しかし，高等学校普通科では，各教科の学習を通して，大学等の上級学校へ進学できる力を身に付けることを目指した授業が展開され，キャリア教育の推進を強調すれば，各教科の授業等で大学等へ進学する力を身に付けることが妨げられるのではないか，という誤解が生じていることが推測できる。

したがって，高等学校普通科でキャリア教育を推進するに当たっては，この点を認識し，進学指導とキャリア教育は相互補完的な関係であり，生徒の利益に適（かな）うものであるという認識を教員一人一人がもてるような手法が必要となる。

(1) 学校教育目標へのキャリア教育の位置付け

学校教育の今日的な課題や生徒の実態等を踏まえて，学校教育目標を設定することになるが，その意味においても，キャリア教育推進は学校教育目標として設定する必要がある。

学校教育目標を具現化するためには，校長の示す経営ビジョンに基づき，校長のリーダーシップと全教員の共通理解の下，コミュニケーション能力の向上の重要性を念頭に置きつつ，教育活動全般でキャリア教育を推進することが重要である。

(2) キャリア教育年間計画の作成

特別活動及び総合的な学習の時間,「ショート・ホームルーム」と呼ばれている時間等を活用したキャリア教育年間計画を考えてみる。特別活動が各教科の学習での成果等を様々な体験活動や話合い等を通して発展させるというねらいをもっているので，その時間に職業や進路に関連する学習活動を行い，キャリア教育を推進する核として有意義に活用することが，一つの有効な手法となる。

ここで，特別活動及び総合的な学習の時間を中心に，コミュニケーション能力の育成に主眼を置いたキャリア教育への取組を例示するので，参考にしてほしい（資料 12）。

平成〇〇年　高等学校普通科「キャリア教育」指導計画（例）　【資料 12】

学年	学期	目　標	項　目	LT	進路関係行事	総合的な学習の時間
第1学年	1学期	自己理解 職業理解	〇新入生オリエンテーション			〇
			〇進路講演会（言葉遣い・マナーについて）		〇	
			〇生徒個人面談		〇	
			〇進路希望調査	〇		
			〇進路適性検査	〇		
	夏季休業	職業理解 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成	〇職業人インタビュー			〇
	2学期	自己理解 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成 他者理解	〇職業インタビュー発表会	〇		
			〇進路講演会（類型選択について）		〇	
			〇生徒個人面談		〇	
			〇進路希望調査	〇		
			〇自分史作成			〇
	3学期	自己理解 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成 勤労観育成	〇自分史作成			〇
			〇自分史発表会（クラス）			〇
			〇進路希望調査	〇		
			〇ボランティア体験（地域清掃）		〇	
第2学年	1学期	職業観・勤労観育成 試行的社会参加	〇進路希望調査	〇		
			〇生徒個人面談		〇	
			〇人生設計作成			〇
			〇インターンシップ準備		〇	
	夏季休業	試行的社会参加 職業観・勤労観育成	〇インターンシップ実践		〇	
			〇進路研究			〇
	2学期	職業観・勤労観育成 将来設計	〇インターンシップ事後指導（プレゼンテーション）		〇	
			〇生徒個人面談		〇	
			〇進路希望調査	〇		
			〇大学等模擬授業			〇
	3学期	進路選択 将来設計	〇生徒個人面談		〇	
			〇大学等説明会（校内）		〇	
			〇小論文・作文指導			〇
			〇ボランティア体験（老人保健施設等訪問）		〇	
			〇進路希望調査	〇		
			〇大学等見学会		〇	
第3学	1学期	進路選択 将来設計 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成	〇進路希望調査	〇		
			〇進路講演会（教育実習生）			〇
			〇生徒個人面談		〇	
			〇試験のための面接指導		〇	

年						
	夏季休業	進路選択 将来設計 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力育成	○小論文指導		○	
			○オープンキャンパス参加		○	
			○進学学習会		○	
			○就職面接指導		○	
	2学期	進路選択 将来設計	○生徒個人面談		○	
			○小論文指導・面接指導			○
	3学期	進路選択	○生徒個人面談		○	

なお，文部科学省は平成 18 年 11 月に「高等学校におけるキャリア教育の推進に関する調査研究協力者会議報告書－普通科におけるキャリア教育の推進－」の中で，高等学校普通科でのキャリア教育指導計画を提示した。A高等学校（進路希望の多様な生徒が在籍する全日制普通科）とB高等学校（進学希望の生徒が多く在籍する全日制普通科）の２例があるので，参考にしてほしい（**資料 13，14**）。

A高等学校「３年間の指導計画」（例）　**【資料 13】**

＊　教科との関連は除く

学年	月	学校行事等	生徒の主な活動 総合的な学習の時間	ホームルーム活動	関連・連携する事項 その他
1学年 可能性を広げて探索する時期	4	○入学式 ○新入生オリエンテーション	○中学校からの移行について検討	○生活・学習目標設定	○中学校とのキャリア教育移行研修会 ○教員対象キャリア教育研修会
	5	○集団宿泊研修 ○各種進路講演会 ○職業理解月間	○「キャリア」へのガイダンスⅠ 「キャリア」の理解・設計 ○各種進路講演会	○高校生活のガイダンス ○集団宿泊研修事前・事後指導 （意義・目的の理解）	○保護者へ３年間のキャリア教育計画の説明会
	6		○職業別講話 ○企業人インタビュー （テーマ別プレゼンテーション）	○夢・将来像を描く ○進路希望調査 ○職業研究	○社会人・職業人の理解
	7	○ボランティア活動の参加 ○夏休み職業人インタビュー （テーマ別プレゼンテーション）	○働くことの必要性・意義の理解	（産業分類・職業分類）	○三者面談 ○個人面談 ○職業人講演会
	8	○選択教科（模擬講義）体験			
	9	○履修科目相談月間	○職業ガイダンスセミナー ・企業の選択・依頼・実施		○生徒と保護者の語る会
	10		○「○○になるためのチャート」作成	○コース選択・科目選択を考える	○個人面談
	11				
	12	○高校生企業体験（全員） ・インターンシップ ・ジョブシャドウィング		○進路希望調査	
	1	○大学・短期大学・専門学校・企業訪問 （プレ学問・企業・職業研究）		○ 事前・事後指導 （意識形成を図る）	○個人面談 ○中学校へキャリアの成長を報告
	2	○３年生と語る会		○進路希望調査	○春休み期間を利用して、インターンシップ等を５日間以上実施する
	3				○春休み期間を利用して上級学校・企業等への訪問
2学年 個々の可能性について吟味する時期	4	○企業体験・大学・短期　大学・専門学校訪問のまとめと発表	○整理・反省・課題の提示、今後への抱負 （テーマ別プレゼンテーション）	○進路適性検査の実施 ○夢・将来像を描く ○進路希望調査	○教員対象キャリア教育研修 ○保護者へキャリア教育説明会 ○全体集会等で他者へ情報提供
	5	○企業･職業研究月間	○「キャリア」へのガイダンスⅡ 「キャリア」の理解・設計	○事前・事後指導 （意識形成を図る）	○保護者の進路意識・希望調査 ○三者面談
	6	○学問研究月間			○個人面談
	7	○論述・プレゼン特講 ○ボランティア活動の参加			
	8	○進路研修の実施 （進路希望別インターンシップ・上級学校研修）	○進路研修報告会	○事前・事後指導 （体験の共有化を図る）	○小論文講座開始 ○グループ別活動
	9				
	10	○進路ガイダンス	○各テーマ別の出張講義等を開催し、進路先の理解を深める	○事前・事後指導 （社会や産業の動向の理解意識形成を図る）	○グループ別活動
	11				
	12		○進路別経済講座		
	1	○大学・短期大学・専門学校・企業訪問 （リトライ学問・職業研究）		○事前・事後指導 （意識形成、体験の共有化を図る）	
	2	○３年生と語る会			
	3				○春休み期間を利用して上級学校・企業等への訪問
3学年 現実的な選択・決定の時期	4	○推薦入試説明会 （就職・進学希望者）	○「キャリア」へのガイダンスⅢ 「キャリア」の理解・設計	○学習計画（補講等受講） ○進路希望調査 （具体的な将来像を描く）	○教員対象キャリア教育研修会 ○保護者へキャリア教育説明会 ○推薦等の手続き説明・指導
	5				
	6	○進路ガイダンス	○進路希望別の出張講義等を開催し、自ら進路の理解を深める	○ 事前・事後指導 （意識形成を図る）	○個人面談 ○三者面談
	7				
	8	○進路研修の実施 （進路希望別インターンシップ・上級学校研修）		○ 事前・事後指導 （意識形成を図る）	○夏休み、長期の職場実習の依頼 ○オープンキャンパス等の活用
	9				
	10		○ライフ・プランニング		○三者面談
	11				○就職・指定校、公募制推薦出願指導
	12				○ＡＯ入試等合格者への指導
	1			○下級生へキャリア教育レポート作成	○一般受験者三者面談、出願指導
	2	○下級生と語る会			
	3				

B高等学校「３年間の指導計画」（例）　【資料 14】

＊　教科との関連は除く

学年	月	学校行事等	生徒の主な活動 総合的な学習の時間	ホームルーム活動	関連・連携する事項 その他
1学年 可能性を広げて探索する時期	4	○入学式 ○新入生オリエンテーション	○「キャリア」へのガイダンスⅠ ○先輩の講話「なぜ学ぶのか、高校生活を振り返って」	○自己紹介 ○集団宿泊研修事前・事後指導	○教員対象キャリア教育研修会 ○保護者へ３年間のキャリア教育計画　の説明会
	5	○集団宿泊研修	○作文「未来予想図」		○全体集会等で高校生活への必修条件の説明
	6	○コース選択説明会	○自己紹介ゲーム ○自己理解　職業レディネステスト	○進路希望調査 ○学習計画	○個人面談 ○三者面談
	7	○文化祭 ○ボランティア活動の参加	○企業人インタビュー	○ 事前・事後指導 （クラス別プレゼンテーション）	
	8				
	9	○体育祭	○職業研究 ①働くことの意義　②職業分類　③生涯賃金　④法律		○特講　レポートのまとめ方
	10		○志望別グループ編成	○進路希望調査	○個人面談
	11		○職業ガイダンスセミナー	○ 事前・事後指導 （学年プレゼンテーション）	
	12			○ 事前・事後指導 （グループ別プレゼンテーション）	○中学校へキャリアの成長を報告
	1		○大学シラバス研究Ⅰ ①シラバスとは何か　②シラバスを読んでみよう　③キーワードピックアップ　④レポート作成		
	2	○３年生を送る会		○１年間の活動の整理	○個人面談
	3				
2学年 個々の可能性について吟味する時期	4		○「キャリア」へのガイダンスⅡ	○学習計画 ○進路適性検査	○教員対象キャリア教育研修 ○保護者へキャリア教育説明会
	5		○学部研究 ①学部学科分類　②学部と資格　③学部と就職　④大学学部比較　⑤大学の特色	○進路希望調査 ○事前・事後指導 （クラス別プレゼンテーション）	○志望別グループ移動調査 ○個人面談
	6				○志望別グループ移動調査
	7	○文化祭 ○ボランティア活動の参加	○研究所・キャンパス訪問 ①訪問先選び　②訪問計画　③キャンパス訪問　④報告書作成　⑤報告会	○ 事前・事後指導 （学年プレゼンテーション）	○三者面談
	8	○オープンキャンパス			○夏休み期間を利用して上級学校を訪問する
	9			○事前・事後指導 （学年プレゼンテーション）	
	10	○体育祭	○学問案内セミナー ①講師選び　②講師依頼　③質問紙作成　④学問案内セミナー　⑤整理		○志望別グループ移動調査
	11	○企業訪問型修学旅行		○修学旅行事前指導・事後指導	
	12				○個人面談
	1		○進路経済講座 ①費用の種類　②学費比較　③自宅と自宅外　④奨学金	○進路希望調査 ○今後の学習計画の見直し	
	2	○３年生を送る会			
	3			○１年間の活動の整理	
3学年 現実的な選択・決定の時期	4	○入試説明会	○「キャリア」へのガイダンスⅢ ○大学シラバス研究Ⅱ ①進路選択のためにシラバス再読	○学習計画 ○進路希望調査	○教員対象キャリア教育研修 ○保護者へキャリア教育説明会
	5		○進路プランニング		○個人面談
	6		①大学卒業後の自分の姿　②学部選択　③大学選択		
	7	○文化祭	○志望理由書作成 「この分野に進む」	○志望理由書発表会（クラス別）	○三者面談
	8	○オープンキャンパス（希望者）			○夏休み期間を利用して上級学校を訪問する（希望者）
	9		○課題研究 「社会と学問・論点整理」 ①新聞スクラップ　②小論文分析 ③論点整理　④討論会		
	10	○体育祭			
	11				○センター試験出願方法 ○三者面談
	12		○企業人の講話　「学問と産業社会」	○ 事前・事後指導	○推薦・ＡＯ入試等合格者会 ○一般入試願書請求
	1		○大学生の講話　「大学生活とは」	○ 事前・事後指導	○一般受験者三者面談 ○二次個別試験出願方法
	2	○1、2年生とのお別れ会		○３年間の活動の整理	
	3	○卒業式			

上記の３種類の「キャリア教育指導計画」を実行する場合に留意しなければならない点を挙げる。

それぞれの活動がイベント的にならないように，事前の学習で，明確な「尋ねたい点」を生徒にもたせ，活動を行う中で，その「尋ねたい点」に対する「答え」を探すようにさせる。そして，事後の学習で活動を振り返るようにさせ,「尋ねたい点」と「答え」を合わせて発表させる場面を設ける工夫等を考える必要がある。そうすることによって，生徒のコミュニケーション能力の向上を図ることができる。

また，それぞれの活動の後に，生徒に対してアンケートを実施したり，ワークシートでの活動をさせたりすることで，教員が個々の生徒の「キャリア発達」を把握していくシステムを構築することにより, 生徒の将来就きたい職業や仕事への興味・関心を高めるような指導・助言をすることができる。そして，生徒のアンケートやワークシートを継続的に実施し，ポートフォリオやカルテの作成等の創意工夫を生かせば，より詳しく生徒の「キャリア発達」を把握することができ，同時に，キャリア教育の適切な評価活動となる。

５　おわりに

各学校においては，地域の状況，生徒の実態を踏まえ，育てるべき生徒像を明確にして，組織的，系統的なキャリア教育が実施できるよう，教育課程を見直し，充実改善を図られたい。この時，それぞれの学校で，特別活動と総合的な学習の時間，そして各教科等を有機的に関連付けた「キャリア教育の全体的な指導計画」を作成することが大切である。